令和6年度第2回宇治市農業振興協議会 会議録

○開催日時：令和6年12月3日（火）午後2時～午後3時40分

○会場：宇治市産業会館 1階多目的ホール

○出席者：15名（3名欠席）

○傍聴者：0名

○報道関係者：1名

<次第>

1. 宇治市地域計画（案）について

過半数の委員の出席により会議が成立

【会議内容】

1. 宇治市地域計画（案）について
事務局（宇治市）より概要を説明
委員による協議、事務局との質疑応答

【質疑応答】

1. 宇治市地域計画（案）について

委員：この計画を作って最終的な到達点は。

事務局：農業者が減るのは避けられない中で新しい技術の導入や集約化による効率的な運用を進め、農地が守られるようにしていきたい。

委員：目標集積率を見ると10年後には担い手がかなり減ってしまうことになる。

事務局：現在の認定農業者、認定新規就農者等になっている方への集積率となっている。

委員：認定農業者の制約が多い。基準を見直すことはないのか。

事務局：国などの支援を受けるには、認定取得が要件となることがあるため、認定取得の声掛け等の取組は必要と考える。

委員：一つの経営体内で複数人が認定をとれないため、認定を受けていない後継者はこの数字に入るか。

事務局：あくまで現時点で認定を受けている人のみ。

委員：いれたら達成度はあがるのではないか。

事務局：おっしゃる通りだが、国の制度上計算には入れられない。

委員：親元就農の方が確実に農地を継いでくれる。後継者に対する支援が必要。

事務局：国の制度は変えられないが、市としてできることは検討課題。

委員：目標集積率は国の基準とは思いますが、現在の認定農業者だけを集計しても10年後は大きく変わってくると思う。また、認定を取得しやすくしたり、認定新規就農者から認定農業者へ移行しやすくしたりする仕組みを考えないと担い手は減少する一方だと思う。

事務局：認定の制度の課題は認識している。また、計画については国基準で全国一律で集計しており、目標と実際の数値に乖離が出る可能性も認識して

いる。今後、毎年地域での協議の場を開催することになっているため、そこで見直しも行っていきたい。

委員：集約というが貸したくなったら借りてもらうために、間に立つ役目は誰が担うのか。

事務局：間に入る役割は、基本的に協議の場での話し合いが国の考えになる。その上で、中間管理機構で権利設定となる。

委員：土地の色分けが目標ではなく、農地を固めることが目標。地域の協議をもっとしなければいけない。

事務局：農業委員会等にも協力してもらって一緒に地域に入っていきたい。

○その他（農業関係への意見や質問）

委員：地域計画のことで言えば、10年後様子が変わると思う。巨椋池はパズルのようにになっている。現実と計画に差があるが、市もその差を理解しつつブラッシュアップしていけたらいい。高温で作物作りにくい中で皆さんどう工夫していくのか、みんなで考えないといけない時代に来ていると思う。

事務局：高温耐性品種の導入もJAや府とも共有しながら進めていけたらと考えている。

委員：借り手はいる。貸し手が貸さない理由が何かをうまく集めて、貸せるようにする必要がある。貸したら土地を取られる心配、制度が難しい、契約の方法、金額など、JAや農業委員会などの機関が、貸し手が貸せるように不明な点を明白に情報提供してもらえたら良いと思う。

事務局：中間管理機構なら期限も明白であるため、そこもアピールしていく。

委員：結局、何事も話し合いをしていかないことには進まない。

委員：面積だけで集約を考えるのはどうかと思う。土地による作りやすさも考慮しては。

事務局：計画では農振農用地の面積なので作りやすさで集計を変えることはないが、現実に即していないというご意見は、今後の見直しで現実に近づけていきたい。

委員：市外の農業者のアンケートや、市内・外の農業者が継続的に協議の場をされるのはよいことと思う。

委員：農業は農家に利益があがることが基本。そのために地域の特産物を作る等の指導も含めて普及センターなど行政と協力して農業の発展を進めてほしい。

以上